

福島第二原子力発電所 プラント状況等のお知らせ
(7月8日 午後3時現在)

平成23年7月8日
東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

平成23年3月11日、当社・福島第二原子力発電所1～4号機（沸騰水型、定格出力110万キロワット）は、定格熱出力一定運転中のところ、東北地方太平洋沖地震により、午後2時48分、原子炉が自動停止しました。（3月11日 お知らせ済み）

3月15日午前7時15分、4号機の原子炉が冷温停止状態となり、これにより当所の全号機（1～4号機）が冷温停止となりました。（3月15日 お知らせ済み）

7月8日午後3時現在、1～4号機は冷温停止中です（各号機の状況は別表参照）。

<下線部が新規事項>

7月7日午後2時5分頃、協力企業作業員が1号機原子炉建屋付属棟地下1階にある電源盤の調査をしていたところ、当該電源盤のしゃ断器近傍から火花が発生していたとの連絡があり、同日午後2時30分頃、当社社員が確認しました。

原因調査のため、同日午後5時37分頃、残留熱除去系（B）を一時停止し、午後5時44分頃、当該しゃ断器に受電している連絡しゃ断器を開放しました。

調査した結果、以下のことがわかりました。

(調査結果)

- ・当該電源盤は、海水の流れ込みがあった部屋に設置されており、停止していたが、当該電源盤受電側回路は他の健全な電源盤（残留熱除去系（B）の電源等）への電源供給ケーブルと接続しているため、充電されていたこと。
- ・当該電源盤受電側回路のケーブル接続導体絶縁部に放電痕跡と絶縁カバー内に塩分の付着が確認されたこと。
- ・同室内は、震災直後から空調機が停止していたため室内湿度が高く、電源盤の設置環境としては良い状態ではなかったこと。

(推定原因)

当該電源盤受電側回路のケーブル接続導体絶縁部については、高圧充電部となっていたことから、感電の危険性があり、絶縁カバー内部の点検を行いませんでした。そのため、当該接続部への塩分の付着が確認できず、その後、室内で発生した結露水が吸着しました。このことから、当該電源盤受電側回路のケーブル接続導体絶縁部の絶縁抵抗が低下し、火花放電に至ったものと推定しました。

(対策)

- ・当該電源盤受電側回路に接続しているケーブルを切り離しました。
- ・また、類似箇所についても、同様に受電側回路に接続しているケーブルを切り離しました。
- ・他にも類似箇所がないか再度確認し、サーモグラフィ診断等による健全性の確認を実施します。

ケーブル切り離し後、同日午後9時15分頃、残留熱除去系（B）を復帰しました。

引き続き、各号機のプラント状態の安定化に努めてまいります。

・ 次回のお知らせは、明日の午後3時を予定しております。

以 上

	1号機	2号機	3号機	4号機
原子炉停止機能 (止める)	○原子炉自動停止 (3/11 14:48) ○全制御棒全挿入中	○原子炉自動停止 (3/11 14:48) ○全制御棒全挿入中	○原子炉自動停止 (3/11 14:48) ○全制御棒全挿入中	○原子炉自動停止 (3/11 14:48) ○全制御棒全挿入中
原子炉注水・除熱機能 (冷やす)	○残留熱除去系 (B) 運転 (3/14～) ※残留熱除去系 (A) は津波の影響で使用不能 ○冷温停止中* (3/14～)	○残留熱除去系 (B) 運転 (3/14～) (注)残留熱除去系ポンプ点検作業のため、一時停止中 (7/8 13:34停止、18:00運転再開予定) ※残留熱除去系 (A) は津波の影響で使用不能 ○冷温停止中* (3/14～)	○残留熱除去系 (B) 運転 (3/12～) ※残留熱除去系 (A) は津波の影響で使用不能 ○冷温停止中* (3/12～)	○残留熱除去系 (B) 運転 (3/14～) ※残留熱除去系 (A) は津波の影響で使用不能 ○冷温停止中* (3/15～)
格納容器 (隔離・除熱) (冷やす&閉じこめる)	○格納容器内での冷却材漏えいなし ○圧力抑制室の水温は通常温度(30℃程度)で安定 (3/14、100℃未滿復帰) ○格納容器ベント (格納容器内の圧力を低下させる措置) は実施なし	○格納容器内での冷却材漏えいなし ○圧力抑制室の水温は通常温度(30℃程度)で安定 (3/14、100℃未滿復帰) ○格納容器ベント (格納容器内の圧力を低下させる措置) は実施なし	○格納容器内での冷却材漏えいなし ○圧力抑制室の水温は通常温度(30℃程度)で安定 (地震発生以前から継続して100℃未滿) ○格納容器ベント (格納容器内の圧力を低下させる措置) は実施なし	○格納容器内での冷却材漏えいなし ○圧力抑制室の水温は通常温度(30℃程度)で安定 (3/15、100℃未滿復帰) ○格納容器ベント (格納容器内の圧力を低下させる措置) は実施なし
外部電源	受電有	受電有	受電有	受電有
非常用電源	○ 2号機非常用ディーゼル発電機(B) 3号機非常用ディーゼル発電機(B)	○ 非常用ディーゼル発電機(B) (H)	○ 非常用ディーゼル発電機(B) (H)	○ 非常用ディーゼル発電機(B) (H)
その他 異常等に関する報告	○3/11 17:35 原災法第10条特定事象 (原子炉冷却材漏えい (格納容器圧力上昇)) →3/11 18:33 原子炉冷却材漏えいはなかったものと判断			
	○3/11 18:33 原災法第10条特定事象 (原子炉除熱機能喪失) →3/14 1:24 残留熱除去系 (B) 起動により復帰	○3/11 18:33 原災法第10条特定事象 (原子炉除熱機能喪失) →3/14 7:13 残留熱除去系 (B) 起動により復帰		○3/11 18:33 原災法第10条特定事象 (原子炉除熱機能喪失) →3/14 15:42 残留熱除去系 (B) 起動により復帰
	○3/12 5:22 原災法第15条「原子力緊急事態」該当事象 (圧力抑制機能喪失) →3/14 10:15 圧力抑制室の水温が100℃未滿となり復帰	○3/12 5:32 原災法第15条「原子力緊急事態」該当事象 (圧力抑制機能喪失) →3/14 15:52 圧力抑制室の水温が100℃未滿となり復帰		○3/12 6:07 原災法第15条「原子力緊急事態」該当事象 (圧力抑制機能喪失) →3/15 7:15 圧力抑制室の水温が100℃未滿となり復帰
	○原災法第10条特定事象 (敷地境界放射線量上昇 [5μSv/h]) 3/14 22:07 (モニタリングポスト [1])、3/15 0:12 (モニタリングポスト [3]) …福島第一原子力発電所の影響による。 →4/3 9:30以降、福島第二原子力発電所敷地境界における放射線量 (モニタリングポストの値) は5μSv/hを下回って推移。 <参考> 当社ホームページ: モニタリングによる計測状況: http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html			

* : 冷温停止・・・原子炉水の温度が100℃未滿となり安定的に停止した状態。